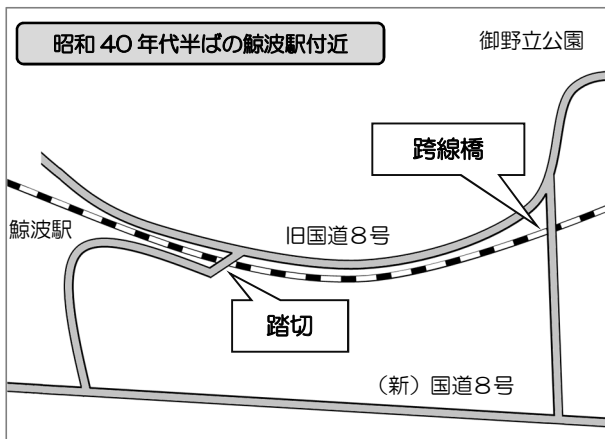


## 「柏崎の橋」 70 鯨波駅東側の跨線橋

鯨波駅東側の跨線橋は、東の輪や番神の高台を通る県道黒部・柏崎線の一部であり、御野立公園前と国道8号を結ぶ。

昭和38年から信越線の複線化が開始されると、鯨波でも大がかりな工事がいくつか計画された。そのひとつが、信越線を跨ぐ陸橋の建設であった。当時の鯨波駅付近は、旧国道8号と新国道8号との間に踏切があり、行き来する自動車の円滑な通行を妨げていた。このため、将来の交通量の増大も見越して、跨線橋が作られることになった。そして昭和45年4月、跨線橋を通して御野立公園前と新国道8号を結ぶ道路が新たに敷設され、新旧国道8号間の往来が容易になった。



鯨波駅付近の踏切（昭和45年）  
広報かしわざき用写真より



鯨波駅東側の跨線橋（昭和45年）  
広報かしわざき用写真より

当時の鯨波駅は古い施設で、駐車場も駅前広場もなかったため、海水浴に訪れる多数の観光客を迎えるには設備が不十分と考えられていた。このため、地元だけでなく柏崎市からも複線化にあわせた駅の改築が強く望まれ、柏崎日報上で「（駅の改築が）複線化の際に実現できないということになれば、今後いつ実現されるか」という声があるほどであった。最終的に鉄道利用債（国鉄が発行する債券）を柏崎市が引き受けることを条件に改築が決定。改築により駅舎が東側に移転し、それまで海側にあった駅の入口が山側に設置され、駐車場も確保された。

跨線橋の完成に伴い、鯨波駅付近の踏切は廃止されることになった。貨物列車の通過待ちで渋滞になる評判の悪い踏切だったが、昭和45年の4月28日をもって通行止めとなり閉鎖された。

「北越鉄道が明治30年に開通して以来の画期的な体質改善」と言われた複線化工事が各地で完了し、鯨波駅付近も人の流れが大きく変わった。御野立公園前から鯨波駅海側へ抜ける道が、かつて国道8号であったことも昔語りとなった。